

平成30年度 第4回 安曇野市協働のまちづくり推進基本方針
及び協働のまちづくり推進行動計画策定・評価委員会 会議概要

1	審議会名	平成30年度第4回安曇野市協働のまちづくり推進基本方針及び協働のまちづくり推進行動計画策定・評価委員会
2	日時	平成31年2月1日(金) 午後3時から午後5時3分まで
3	会場	本庁舎 3階 共用会議室306
4	出席者	栗田会長、細川副会長、磯野副会長、重野委員、山田(直)委員、大澤(克)委員、吉田委員、浅見委員、青柳委員、小澤委員、山田(百)委員、西澤委員、望月委員
5	市側出席者	宮澤市民生活部長、小林地域づくり課長、山田地域づくり課長補佐兼まちづくり推進係長、坂口主任、土屋地域おこし協力隊員
6	公開・非公開の別	公開
7	傍聴人	0人 記者 0人
8	会議概要作成年月日	平成31年2月7日

協 議 事 項 等

1	<p>会議の概要</p> <p>(1) 開会</p> <p>(2) あいさつ</p> <p>(3) 報告・協議事項</p> <p>①第2次「協働のまちづくり推進基本方針及び協働のまちづくり推進行動計画」(案)のパブリックコメント結果及び最終案について</p> <p>②第1次「協働のまちづくり推進基本方針及び協働のまちづくり推進行動計画」の進捗状況及び評価について</p> <p>(4) 閉会</p>
2	<p>会議事項概要</p> <p>(1) 開会 (進行：細川副会長)</p> <p>(2) あいさつ (栗田会長)</p> <p>(3) 協議事項</p> <p>①第2次「協働のまちづくり推進基本方針及び協働のまちづくり推進行動計画」(以下、「第2次計画」という。)のパブリックコメント結果及び最終案について</p> <p>※事務局より、資料に基づき、パブリックコメントの結果と修正後の第2次計画最終案について説明。</p> <p>【会長】</p> <ul style="list-style-type: none"> 事務局より説明をいただいた。これがホームページに公表されるので、特に市の考え方、対応のところでご意見をいただきたい。 資料P2の2段目、第2次計画は自治基本条例に包含されるとありますが、「包含」という表現は分かりにくいのではないかと。 <p>【事務局】</p> <ul style="list-style-type: none"> 意味合いとしては、安曇野市における最高規範である自治基本条例があり、それに基づいて第2次総合計画があり各個別計画があるということだが、表現については改めさせていただく。 <p>【会長】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「則っている」ということですね。

【委員】

- ・資料P2の市民活動サポートセンターのところだが、とりあえず地域づくり課職員が基盤づくりを担うが、将来的には人財を育成して担っていただくという理解でよいか。

【事務局】

- ・そうです。職員でもう一度機能を見直し、充実を図ったうえで仕組みを作る。同時にコーディネーター養成講座修了生らに参画してもらい、協働の理解とセンターの運営に携わっていただく予定。そういった中で、人財の育成にも取り組んでいければということ。

【委員】

- ・広報の充実を要望する意見が多くある。市民が主役になって動いてもらうには情報の提供が大事。この計画でということでないが、こうした要望があることを他の部署とも共有していただきたい。

【会長】

- ・P3で部制度が出てくるが、なぜ部制度を作ると課題が解決できるのかといった面がわかりにくい。

【事務局】

- ・部制度はあくまで方法。まずは現状の区を見直すこと。コミュニティの希薄化、高齢化、役員のなり手不足などいくつかの課題がある中で、多くの皆さんが参画する中で、役員の負担を減らし、さまざまな組織を束ね、より効率的効果的な仕組みを整えていきましょう。自ら考えていきましょうというもの。

【会長】

- ・きっかけになればということですね。

【事務局】

- ・区民総参加のまちづくりを目指すもの。また、区長会では、部という形にしななければいけないとは言っていない。現状を見つめ直し、より良い仕組みを築いていきましょうとしている。その辺を表現したい。部制度の説明を入れることも検討する。

【委員】

- ・地域リーダーはどう推薦されてくるか。リーダーと区長が連携しながら課題を解決していくのだから、重要な役割を担う。手をあげる人を待つのか、指名するのか。地域のことがわかっていないと手をあげられないならば難しい。

【事務局】

- ・市が実施した地域リーダー育成講座があるが、座学の10回だけで活動の場がなかった。市民活動サポートセンターでは、市民活動団体に加えて区を入れて協働を前面に出していきたい。そういった中で参画していただく仕組みを考えていきたい。また、地域で実践している人をどう発掘していくかも、市区長会と相談しながら考えたい。

【委員】

- ・リーダーとして地域に入り込んで活躍することは難しいこと。本当に地域づくりをやっていくのなら、子どもの時から育てていく必要がある。協働は難しく理解できない。

【事務局】

- ・わかりやすくするために、皆さんに考えていただき、この計画を作っている。

【委員】

- ・P1のワークショップのところ。案だが、自分は何ができるかまでを書き込み発表していただくといいと思う。

【委員】

- ・全体的なことだが、自助努力といったような言葉が入ると市民は受け止めやすいと思う。自助努力があつてこそ次の課題が見つかる。

【会長】

- ・目標についてだが、数値で測れないものばかりではないと思う。認知度など、入れられるものがあるのではないかな。

【事務局】

- ・アンケート結果で表れるものもあるので、委員から要望があれば検討します。

【会長】

- ・入れられるかは目標の数値をどうするかも含めて検討しなければいけない。

【委員】

- ・アンケート結果を入れておくことも一つの方法では。

【委員】

- ・活動について、自治意識を持つとか主体的に参加するとか、個が参加する文章になっている。行動とともに参加することが大事で、最初から自治意識うんぬんでなく、それを育てていくことが求められる。まず、活動に参加する機会を持つ、作ることが大事。行動が意識を変える。そのへんを盛り込んでほしい。

【事務局】

- ・数値的なことは、行動要領とは別のところに入れていきたい。
- ・ところどころで「参加しましょう」と言っている。どんなイメージで入れたらいいかな。

【委員】

- ・参画する輪を広げるということ。忙しい人でも参加できるようにしていかなければいけない。
- ・現場に出て、一緒に汗を流すことが大事。

【委員】

- ・情報が足りないのだと思う。情報があれば、もっと参加しやすくなる。

【事務局】

- ・全体的に見て、加えられれば入れていきたい。

【委員】

- ・参画の輪を広げる、ともに行動するという事でお願いします。

【会長】

- ・分類の仕方になるが、「意識を高める」と「参加・行動を促す」が別の項になっている。参加する中で意識が高まるということなので、それが一緒になればいいのでは。

【委員】

- ・誰もがそれなりに地域活動に参画し、その中で意識を高めたという自覚があると思う。計画を読むことによって変わるのと、行動して変わるこの両方をやらないと。

【委員】

- ・桜坂区で、いろいろな人を巻き込んでやったことがある。そういうことから始まる。

【委員】

- ・協働という言葉を使うと難しい面がある。この地域のことを皆で考えてやっていこうというのが大事。

【委員】

- ・時代が変わり、地域においては価値観が多様化している。足を運んで知ることが大事。

【事務局】

- ・地域の中で参画することについては、区への支援という中で検討し反映できればしたい。

②第1次「協働のまちづくり推進基本方針及び協働のまちづくり推進行動計画」
(以下、「第1次計画」という。)の進捗状況及び評価について

※事務局より、資料に基づき、第1次計画の進捗状況及び評価について説明。

【会長】

- ・意見等ありますか。

【委員】

- ・総じてみると、企業とのかかわりが促進できていない。全国的に企業も地域貢献活動をしようとしている。例えば企業でお祭りを開いているところもあるので、そこに区民が行ったり、逆に区の総会に来ていただいたりすれば、つながりが持てると思う。
- ・地域リーダーについては、地域で何かやりたい人の勉強のため、スキルアップのための講座という位置づけでもいいのではないか。

【事務局】

- ・企業とのかかわりについては仰るとおり。過日の市区長会主催地域を考える研究集会でも報告があったが、見学会や交流会を開催したり、災害時の避難場所として連携しているところもある。こうしたことがきっかけになればいい。また、メセナ活動等に取り組んでいる企業もある。十分に把握できなかった面があり、今後は情報をしっかりと収集し、つなげていきたい。
- ・地域リーダーについては、修了者が地域等で参画し活躍していただくことを考えている。また、研修会の実施についても研究したい。

【委員】

- ・相談窓口が低い評価になっているが、行こうという人がいないため、取り組んでいないわけではない。評価を上げることは難しい面がある。

【委員】

- ・地域リーダーだが、農村部では、集約化された大規模農家がリーダーになっていく傾向がある。

【委員】

- ・社会福祉協議会のH31のキーワードは「人づくり」。これからは、それぞれが地域の中でできることがあるんだよということ。そこでは、リーダーの概念は強くない。リーダーだと負担になってしまう。言い換えれば、いろいろなところにリーダーがいるということ。これからはどんな場所、機会があるか、意欲ある人をどう活かすか、コーディネートしていくことが大事。コーディネートが機能すると相談にも来る。社協では、朗人大学の学ぶ意欲ある皆さんを地域につなげて活躍していただく、そういった取り組みもしていく予定。

【委員】

- ・各区に防災リーダーがいるが、消防団などの経験者をお願いしていることが多い。それぞれの地域に特色があり、それに沿った人材を地域の中で探したり育てたりするのがよいと思う。2025年に向けて、地域リーダーになり得る人材はいると思う。

【委員】

- ・女性の区長さんも、もっといてほしい。

【委員】

- ・もっといてほしいが、子育て、介護等で忙しく、やりたくてもできない人がいらっしゃる。

【委員】

- ・サポートセンターの評価が芳しくないが、来年度、移設にあたり大きく変わるので期

待している。テーマ型の団体と区との連携はこれから重要となるが、このことが深まり
そう楽しみ。先進的な取り組みになるのでは。

- ・サポートセンターが、地域リーダー育成講座や協働コーディネーター養成講座の修了生
ら意欲ある人のスキルアップの場になればいいと思う。

【委員】

- ・育てていく役割を担っていただきたい。行政と団体をつないだり、よい事例を紹介する
ことで、さらに輪を拡げることができるのではないかな。次の行動のきっかけにもなる。

③（その他）

【会長】

- ・その他にいかがか。

【委員】

- ・協働に関して、言葉の理解はまだまだだと思うが、市区長会やまちづくり推進会議での
支え合い助け合いについての議論を見ると、協働が基盤となってきている。今後、それ
ぞれが実行に移すことで、結果的に協働が生まれてくるのではないかな。

【委員】

- ・1月3日に熊本県で震度6弱の地震に見舞われた。行政、住民が、それぞれやることを
やっていて、これが協働と感じた。

【委員】

- ・1月に市民活動サポートセンターの講座で、事務局による協働の出前講座を聞いた。わ
かりやすく多くの人に聞いていただきたい内容だった。機会を設けて活用してほしい。

【会長】

- ・以上で、議事を終了します。

（4）閉会

【副会長】

- ・平成30年度第4回協働のまちづくり推進基本方針及び協働のまちづくり行動計画策定・
評価委員会を閉会する。